

(その 117) 集団で知恵を出して解決へ (2015.6)

4月初旬川崎区日の出町に住むMさんが電話で「夫が拘束中で就職先があれば減刑になるかもと弁護士さんに言われました。仕事がないでしょうか」という相談がありました。「センターでは仕事を紹介できない」と応対したSさんは断りました。

3日後、Mさんが来所して「4月17日に裁判があり釈放された時に就職先が決まっていれば実刑でなく執行猶予が付くかも知れないので相談センターに就職させてもらえないでしょうか」とのことでしたが、応対したKさんも「見たこともないどんな人かも知れない人を相談センターに就職させられない」と再度断りました。

Kさんは家に帰ってからもこのことが気になり眠れなかったので次の日所長に「Mさんに会って相談にのってあげて欲しい」という依頼で4月10日にセンターで合いました。

詳しく話を聞いているうちに川崎区のW興業なら引き受けてもらえるのではないかと思います、社長に連絡して面接してもらったところ「うちの会社は30年も前から横浜保護監察所協力会社であり、Mさんの主人のような人が何人も働いているし引き受けましょう」と二つ返事で「出所したときはW興業に就職させます」との手紙を書いてもらい弁護士に送りました。

「判決は懲役2年執行猶予4年で実刑を免れ釈放になりました。御恩は一生忘れません」と報告とお礼に見えました。5月15日に面接して18日からW興業で働くことが決まりました。

この相談の教訓は、相談員が集団で知恵を出し合い最後まで相談解決の可能性を追求したことです。